

県営担い手育成基盤整備事業

八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報 6

福岡県八女市大字忠見・吉田所在遺跡の調査概報

八女市文化財調査報告書 第60集

2000

八女市教育委員会

序

平成6年度から始まりました、県営担い手育成基盤整備事業（八女東部地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査もいよいよ最終年度となり、八女市の忠見、吉田地区に所在する遺跡を発掘調査いたしました。これまでの発掘調査で貴重な遺跡や遺物が発見され、八女東部地区や北部地区の古代文化が少しずつ解明されてきております。これらの成果が、今後の文化財保護の向上に役立つよう心より願っております。

発掘調査にあたりましては、八女東部土地改良区、福岡県筑後川水系農地開発事務所、地元町内会、福岡県教育委員会をはじめ、関係各位から多大なご理解、ご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成12年3月31日

八女市教育委員会

教育長 樋口 欽一

例 言

1. 本書は、八女市が平成11年度に国と県から補助を受けて実施した県営担い手育成基盤整備事業（八女東部地区）に伴う発掘調査の概報である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。
3. 遺構の実測は国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準として行った。また、本書に示した方位は磁北である。
4. 発掘現場での遺構実測は参加者で行った。また、現場写真については中川と山田がそれぞれ行った。
5. 出土遺物は、岩戸山歴史資料館において整理・保管している。
6. 西小牟田遺跡1次2地点については、平成10年度報告書刊行後に現地調査が終了したため、今回の報告書中に掲載することとした。
7. 本書の執筆は各遺跡の担当者が行い、編集は赤崎・中川・山田が行った。

本文目次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	3
III. 発掘調査の概要	
1. 西小牟田遺跡2次調査	6
2. 西小牟田遺跡1次調査2地点（平成10年度）	9
3. 島巡遺跡	12
IV. おわりに	16

挿 図 目 次

第 1 図	八女東部地区遺跡分布図 (1/25,000)	4
第 2 図	西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点・2 次調査 周辺地形図 (1/5,000)	5
第 3 図	西小牟田遺跡 2 次調査全景 (南より)	6
第 4 図	西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点・2 次調査 遺構配置図 (1/500)	7
第 5 図	西小牟田遺跡 2 次調査 1 号溝土層断面 (北より)	8
第 6 図	西小牟田遺跡 2 次調査 1 号溝土層断面実測図 a-a' (1/40)	8
第 7 図	西小牟田遺跡 2 次調査 7 号溝 (西より)	8
第 8 図	西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点全景 (北より)	9
第 9 図	西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点 1 号溝土層断面実測図 a-a' (1/40)	10
第 10 図	西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点 1 号溝 (北より)	10
第 11 図	島巡遺跡 周辺地形図 (1/5,000)	11
第 12 図	島巡遺跡 遺構配置図 (1/400)	13
第 13 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面 (東より)	14
第 14 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面実測図 a-a' (1/40)	14
第 15 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面 (西より)	14
第 16 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面実測図 b-b' (1/40)	14
第 17 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面 (北東より)	14
第 18 図	島巡遺跡 3 号溝土層断面実測図 c-c' (1/40)	14
第 19 図	島巡遺跡全景 (上空より)	15
第 20 図	島巡遺跡 作業風景 (北西より)	15
第 21 図	島巡遺跡北側 確認調査区全景 (北より)	15

I. はじめに

1. 調査経過

八女東部地区は米麦作と電照菊栽培が盛んな地区である。しかし耕地は不整形に小さく分散し、農道も狭小屈折が甚だしいなど、ほ場が未整備のために農作業の効率が非常に悪い状態であった。県営担い手育成基盤整備事業は、ほ場の大区画化、農道・用排水の整備を行うことで耕地の汎用化を図り、施設園芸ハウスの集団化と大型機械の導入による農業経営の近代化と合理化、作目選択の自由化などを行うことによって農業所得の増大を図ることを目的に、平成6年度から5ヶ年計画で県と県の補助事業として約210haを対象に開始された。

事業地内の周知の遺跡としては長峰地区条里、忠見地区条里、上妻地区条里が存在し、八女市内で最も条里地割りが残る地区として注目されていたが、他の遺跡は確認されていなかった。しかし、国道442号線付近には弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が点在しており、事業地内にも埋蔵文化財の存在が予想されたため、試掘調査と関係者間協議を行いながら本調査対象区域を決定していった。

平成6年度は八女市平田地区で事業が行われ、12,000㎡が調査対象となる。主な遺跡としては弥生時代と古墳時代の集落跡と豪族居館が発見された平田・六反田遺跡がある。

平成7年度は八女市平田・本・黒土地区で事業が行われ、関連事業である灌漑排水路建設と山ノ井川河川改修工事に伴う調査もあわせて実施し、26,230㎡が調査対象となる。主な遺跡としては、多量の押型文土器を伴う石組炉が発見された尺取遺跡や、中世居館跡と思われる井戸や溝が発見された石仏遺跡などがある。

平成8年度は八女市平田・本・黒土・吉田地区で事業が行われ、灌漑排水路建設に伴う調査もあわせて実施し、24,650㎡が調査対象となる。主な遺跡としては5基の落とし穴が1列に並ぶ道手遺跡や、弥生時代中期の集落跡と甕棺墓群、古墳時代前半の方形周溝墓が発見された西原遺跡などがある。

平成9年度は八女市黒土・忠見・吉田・井延地区で事業が行われ、灌漑排水路建設と山ノ井川河川改修工事に伴う調査もあわせて実施し、23,450㎡が調査対象となる。主な遺跡としては弥生時代終末期、古墳時代前期の建物群と、官衙関係と思われる8世紀後半～9世紀の建物群が発見された風流松遺跡、歴史時代の道路遺構や建物が発見された黒土・新替遺跡などがある。

平成10年度は八女市黒土・忠見・井延・宅間田・吉田地区で事業が行われ、22,250㎡が調査対象となる。主な遺跡は八女丘陵の南側斜面に立地する弥生時代後期から平安時代までの集落跡が発見された東松山遺跡や、柱穴の礎板が設置された状態で残る古墳時代前期の建物が発見された美男川遺跡などがある。

そして平成11年度は、八女市吉田・忠見地区において前年度に引き続き調査を行った。約8,000㎡が調査対象となる。現地調査は平成11年4月5日に着手し、8月17日に終了した。現地での調査に引き続き整理作業は岩戸山歴史資料館で行った。(山田)

2. 調査関係者

筑後東部第3期土地改良区

理	事	長	野	上	登
事	務	局	江	崎	国雄
事	務	局	西	江	正行
		員	倉	員	順子
	同		内	野	恵美子
	同				

福岡県筑後川水系農地開発事務所 (基盤整備事業関係者)

所		長	伊	藤	三十四
副	所	長	田	中	恵治
工	事	第1課	堀		晋治
同	課	第2係	高	井	旭
同	係	技術主査	中	村	建一
同	係	主任技師	土	井	博文
同	係	技師	奥	村	健次郎

八女市教育委員会

教	育	長	樋	口	欽一
教	育	部	石	松	憲治
生	涯	学	大	隈	繁敏
生	涯	学	志	岐	徳
文	化	財	赤	崎	敏男
		係	中	川	寿賀子 (調査担当)
	同	係	大	塚	恵治
	同	係	森	田	尚美
	同	係	山	田	朗子 (調査担当)
		嘱託			

II. 位置と環境

八女市は福岡県の南部に位置し、東には矢部川の本流に臨む黒木町と星野川流域の上陽町が隣接する。北には八女丘陵を境に広川町、西には九州自動車道を境に筑後市、南には矢部川を挟んで立花町がある。八女市内の主要道路として国道3号線が南北に走り、国道442号線が東西に走る。また、市の西端を走る九州自動車道は県内都市圏はもとより、県外に移動する手段として大きな役割を果たしている。主要な産業は農業で、花卉、米、茶、野菜の生産が盛んである。特に「八女電照菊」「八女茶」は全国的にも有名で、市内農業粗生産高の約半分を占めている。基盤整備事業地区内にも菊栽培用地として利用されていた土地が多く点在した。

以下、市内の主要な遺跡を見ていく。なお、八女東部においては前述したので省くことにする。旧石器時代は、立山山古墳群の検出時に終末期の細石刃が2点表採されただけである。

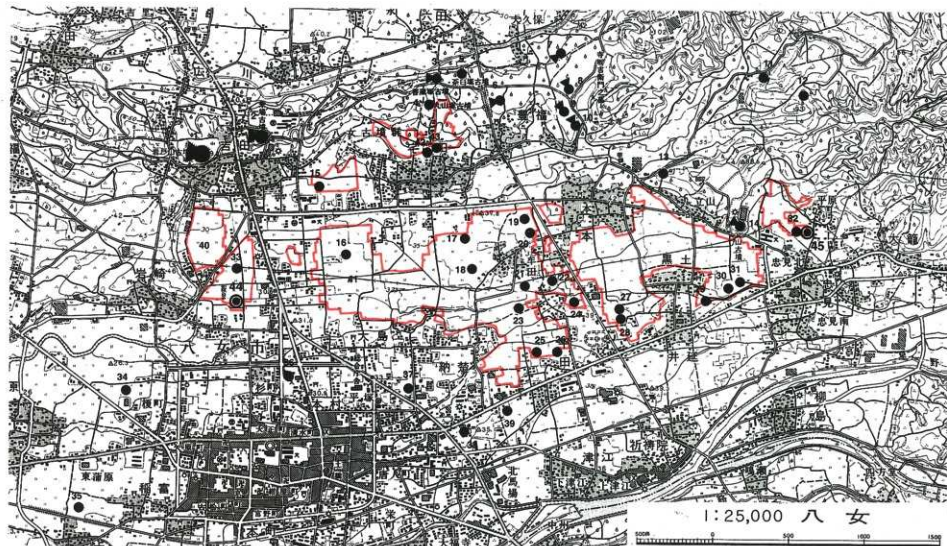
縄文時代は、早期の押型文土器が立山山古墳群、国武遺跡で出土しており、特に国武遺跡から出土した押型文土器は楕円文が圧倒的に多く、北部九州各地の同時期の遺跡と異なっている。また、アモメ遺跡からは後期の竪穴住居から石製品や石囲炉、小児用甕棺墓から獣形勾玉などが出土している。

弥生時代の前期中頃から後半にかけての遺構として、立野・大坪遺跡の二重環濠から刻目突帯文系の土器が出土している。中期では赤氏遺跡や室岡工業団地内遺跡などから大集落が発見され、竪穴住居からガラス玉や刀子が出土している。熊野遺跡や茶ノ木ノ本遺跡、野田遺跡などからは甕棺墓や石棺墓、土壇墓で構成された墓域が発見された。墳墓からの副葬品として後漢鏡や鉄戈、銅剣、鉛矛が出土している。

古墳時代前半では深田遺跡や平田・六反田遺跡から豪族居館跡とされる方形の環濠が発見されている。また西原遺跡2次から方形周溝墓群が発見され、他地域との交流を示す山陰・山陽系の土器が多数出土した。後期では高野町遺跡や室岡工業団地内遺跡3次などから大規模な集落跡が発見され、高野町遺跡からは土製模造鏡や子持勾玉が出土している。この時期丘陵上には岩戸山古墳などの前方後円墳が築かれており、谷部には筑後地方最大の八女古窯跡群がある。なお、立山山窯跡群では埴輪を専門に焼かれていた。

奈良・平安時代では池上遺跡や深田遺跡などから集落跡が発見され、一方各地で条里制地割りの名残と思われる地名や水田区画がみられる。

中世遺構では東館遺跡の居館跡と犬尾城の山城跡が発見されている。(山田)



1. 岩戸山古墳 2. 乗場古墳 3. 善蔵塚古墳 4. 丸山塚古墳 5. 茶臼塚古墳 6. 鶴見山古墳 7~10. 釘崎古墳群 11. 中尾谷竊跡群
12. 三助山竊跡群 13. 立山山竊跡群 14. 丸山古墳 15. 平島遺跡 16. 道手遺跡 17. 餅田遺跡 18. 丁ノ坪遺跡 19. 枕林遺跡 2次
20. 枕林遺跡 1次 21. 永尾遺跡 22. 千松遺跡 23. 西原遺跡 24. 尺取遺跡 25. 平田・六反田遺跡 26. 北ノ前遺跡 27. 野ノ内遺跡
28. 春田遺跡 29. 中園遺跡 30. 黒土・新替遺跡 31. 風流松遺跡 32. 西小牟田遺跡 1次 33. 美男川遺跡 34. 惣津町遺跡 35. 一竿遺跡
36. 福島中学校校庭遺跡 37. 万上田遺跡 38. 熊野遺跡 39. 高島遺跡 40. 下吉田地区条里 41. 長峰地区条里 42. 上北運輪遺跡
43. 東松山遺跡 44. 島巡遺跡 45. 西小牟田遺跡 1次 2地点・2次

〔 〇 〕 八女東部果樹担い手育成基盤整備事業対象地区

第1図 八女東部地区遺跡分布図 [1/25,000]



第2図 西小牟田遺跡 1次調査 2地点・2次調査 周辺地形図〔1/5,000〕

Ⅲ. 発掘調査の概要

1. 西小牟田（にしこむた）遺跡 2 次調査

所在地 八女市大字忠見字西小牟田

調査期間 平成11年4月5日～11年5月31日

調査面積 3,300 m²

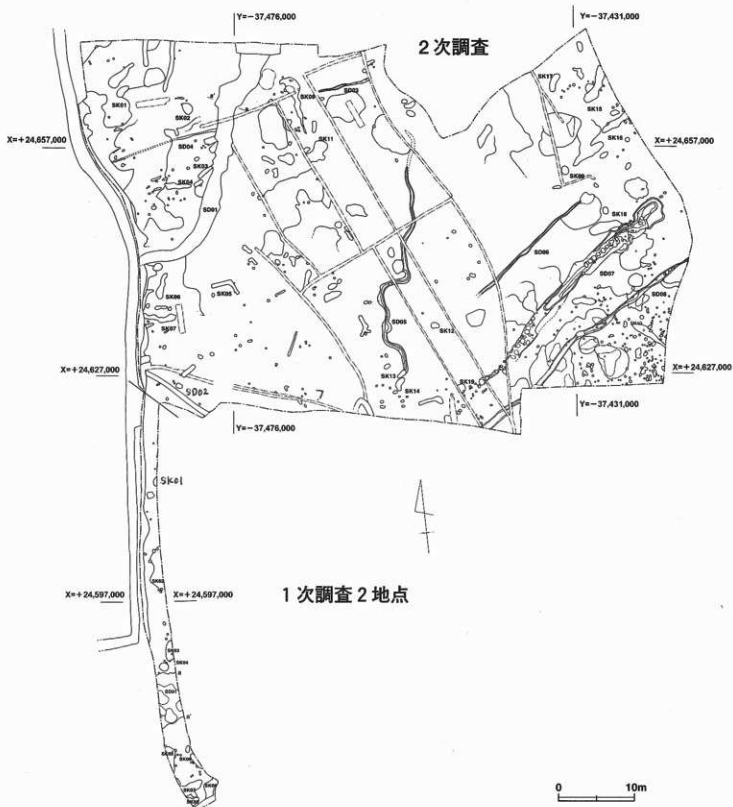
調査概要

本遺跡の所在する忠見地区は八女市の北東部に位置し、北側には八女丘陵が連なっている。忠見地区は八女市でも珍しく山間部の多い地域で、須恵器などの窯跡（八女古窯跡群）が見つかった。また、古墳も多く、特に調査区の西側約400 mの所には、八女丘陵上で最も東側に位置する前方後円墳である丸山古墳（国指定史跡）があり、その北側には「金製垂飾付耳飾り」や多くの埴輪が出土した立山山古墳群がある。その他にも調査区北西350 mの所には、平原古墳群（未調査）や、さらに北側には牛焼谷古墳群がある。

本遺跡は、平成10年度に発掘調査を実施した西小牟田遺跡1次調査1地点の東隣にあり、西小牟田遺跡1次調査2地点の北側に位置する。標高は47 m～48 m前後で、南側へ緩やかに傾斜している。遺構は全体的に少なく、主なものとしては溝8条、土壇19基、ピットなどが見つかった。1号溝（SD 01）は調査区北西部に位置し、北側から西側にカーブしている。規模は調査区内での検出全長約35 m、幅約2.3 m、深さ0.9 mで自然流路と思われる。7号溝（SD 07）は調査区の東側にあり、北東から南西方向に走っている。規模は検出全長約34 m、幅は約1.5～3 m、深さは約0.2 m～0.5 mである。東側が途切れている点や、溝内のピットの位置などから、道路状遺構の可能性も考えられる。主な出土遺物としては、土師器や須恵器が出土しており、時期は8世紀頃と考えられる。土



第3図 西小牟田遺跡2次調査全景（南より）

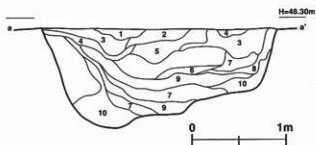


第4図 西小牟田遺跡1次調査2地点・2次調査 遺構配置図 [1/500]



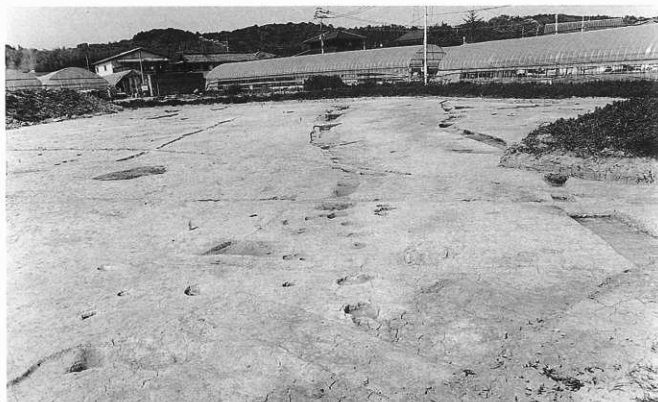
第5図 西小牟田遺跡2次調査 1号溝土層断面(北より)

墳はいずれも残りが悪く、用途については不明である。今回の発掘調査においては集落としての痕跡は見つからなかった。また、西小牟田遺跡1次調査1地点西側でも遺構はなく、現在四方に暗渠が作られていることなどから、元来水捌けが悪く、人が居住するには不適格な土地であったことが伺える。
(中川)



第6図 西小牟田遺跡2次調査 1号溝土層断面実測図a-a' [1/40]

1. 薄茶灰色砂利
2. 薄茶灰色砂利が混入するやや粗い灰色砂質土
3. 粘質を帯びた灰色砂質土
4. 粘質を帯びた灰色砂質土が少量混入する灰色砂質土
5. 砂利が混入する粗い薄茶灰色砂質土
6. 灰色砂質土が混入する粗い灰色砂質土
7. 灰色砂質土が混入する灰色砂質土
8. 暗い灰茶褐色粘質土
9. 粘質を帯びた薄茶灰色砂質土
10. やや暗い暗灰茶褐色粘質土



第7図 西小牟田遺跡2次調査 7号溝(西より)

2. 西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点（平成 10 年度調査）

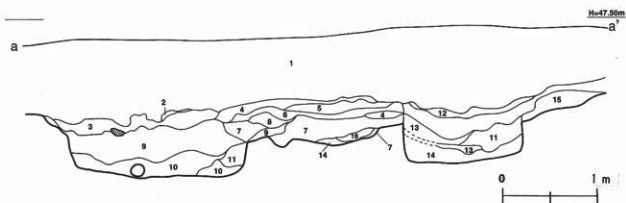
所在地 八女市大字忠見字西小牟田
調査期間 平成 11 年 2 月 22 日～11 年 3 月 12 日
調査面積 160 m²
調査概要

本遺跡は、平成 10 年度に発掘調査を行なった西小牟田遺跡 1 次調査 1 地点の南東約 30 m の所に位置しており、支線排水路分として発掘調査を行なった。発掘調査以前は水田であり、西側には用水路が流れていた。また、南側には忠見北地区の集落が広がっている。調査区域は南北に長く、長さ 53 m、幅 3 m の範囲で発掘調査を行なった。付近の標高は 47 m 前後である。

遺構は全体的に少なく、残りが悪い。主な遺構は、溝が 1 条と土壇が 9 基、その他ピットなどが見つかっている。1 号溝（SD 01）は、調査区の南側に位置しており、北東から南西方向に流れている。規模は調査区内での検出全長約 3 m、幅約 6 m で、深さは約 0.5 m 前後である。土層などから 3 時期が確認されている。主な出土遺物としては、北側下層から弥生時代後期の甕形土器が出土しており、上層から砥石などが出土している。土壇は南側に集中している。土壇中最も残りがよかったのは 4 号土壇（SK 04）で、SD 01 のすぐ北側にある。平面プランは円形で、規模は直径 1.1 m、深さ 0.73 m である。主な出土遺物としては、弥生時代後期の壺形土器や甕形土器が出土しており、廃棄用の土壇であったと考えられる。本遺跡は弥生時代後期を中心とする遺跡であるが、表探の中には青磁や染付けなどが含まれており、周辺に中近世の遺跡があったと思われる。（中川）



第 8 図 西小牟田遺跡 1 次調査 2 地点全景（北より）

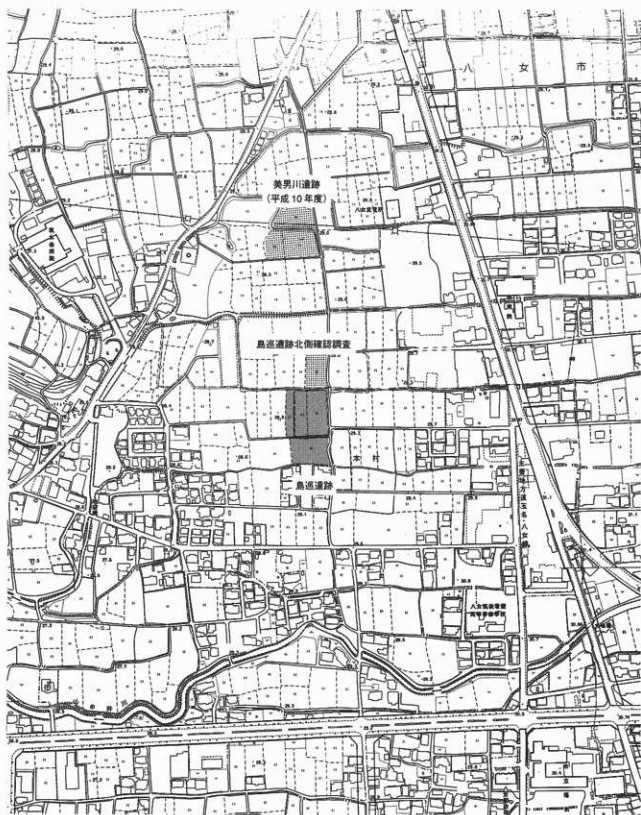


- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 暗茶褐色土 | 9. 黄灰色砂質土と地山ブロック混入する茶灰色砂質土 |
| 2. 砂利が混入する暗茶褐色土 | 10. 暗灰色砂質土 |
| 3. 薄茶灰色土 | 11. やや薄い暗灰色粘質土 |
| 4. 薄茶褐色土 | 12. 暗灰色粘質土 |
| 5. 暗茶灰色粘質土 | 13. 黄茶褐色砂利 |
| 6. やや薄い暗茶灰色砂質土 | 14. 暗灰色粘質土 |
| 7. 地山(青灰色粘質土)ブロック混入する茶灰色粘質土 | 15. 黄茶褐色砂利 |
| 8. 地山ブロック混入するやや薄い茶灰色粘質土 | 16. やや薄茶灰色粘質土 |

第9図 西小牟田遺跡1次調査2地点 1号溝土層断面実測図a-a' [1/40]



第10図 西小牟田遺跡1次調査2地点 1号溝(北より)



第11図 島巡遺跡 周辺地形図 (1/5,000)

3. 島巡(しまめぐり)遺跡

所在地 八女市大字本村字島巡 866-1番地
調査期間 平成11年5月19日～11年8月17日
調査面積 4,200㎡
調査概要

本村は八女市の北部に位置し、八女丘陵の裾部に集落がひろがる。国道3号線が市内を南北に貫き、都市圏へ向かう主要道路となっている。この地区の北側には、八女丘陵上の岩戸山古墳、乗場古墳を望む。当遺跡は、平成10年度に調査を行った美男川遺跡に引き続いて調査を行った。美男川遺跡の約175m南に位置する標高28m前後の低湿地帯で、調査以前は水田として利用されていた。調査区東側には条里制地割の痕跡が残っており、現在でも坪間が道路や水路として利用されている。島巡遺跡の遺構は、50cm程度の表土を除去した後に表れる黄橙色粘土上で検出され、基盤面の標高は美男川遺跡の南側で1段低くなるが、当遺跡に入ると徐々に高くなってきている。そのため造成によって遺構が大きく削平されており、調査区南側には筋状の擾乱が南北方向に多数入っている。

調査の結果、溝4条、湿地状遺構、ピット数個が発見された。

1号溝(SD01)は調査区中央を東南東から西北西方向に流れる溝である。検出全長30.26m、幅0.3～0.64m、深さ6～15cmを測る。北西側は削平を受け消滅している。堆積土の土質を観察したところ、最下層は暗灰色粘土でゆるやかな流水であったと思われる。遺物は出土していない。

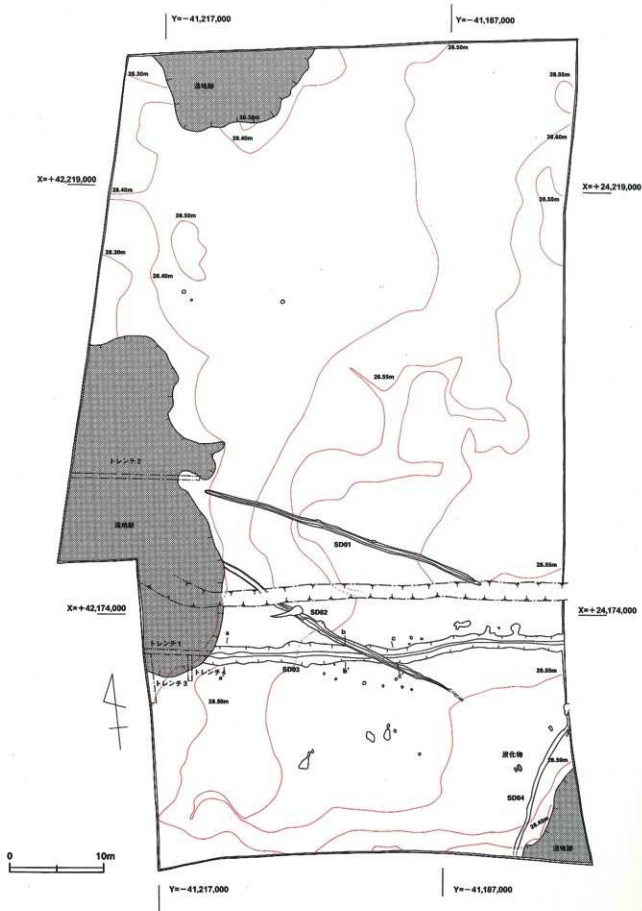
2号溝(SD02)はSD01の南側をほぼ平行に流れる溝である。検出全長36.28m、幅0.22～0.78m、深さ2～13cmを測る。遺物は出土していない。

3号溝(SD03)は調査区の南寄りに位置し、東から西方向に流れる溝である。SD02に切られており、西側は湿地状遺構の粘土がかぶさっている。検出全長43.9m、幅1.32～2.32m、深さ45～56cmを測る。堆積土の土質を観察したところ、最下層は黒灰色粘土、もしくは赤灰色細砂でやはりゆるやかな少量の流水であったと思われる。当遺跡内では最も残りの良い遺構であったが、遺物は殆ど出土せず弥生時代前期の土器片3点と黒曜石片が出土しただけである。

4号溝(SD04)は調査区の南東部に位置し、北北東から南南西に流れる溝である。検出全長14.25m、幅0.22～0.48m、深さ6～13cmを測る。遺物は出土していない。

以上のように調査区全体が削平を受けており、遺構の残存状況は非常に悪い。唯一残りの良かったSD03からも遺物がほとんど出土せず、遺構の性格や、明確な時期などはわかっていない。しかし、弥生時代の石器や土器が表土や調査区内から表探され、なんらかの遺構があったと考えられる。湿地状遺構は調査区の西側一帯と南東部に見られ、20cm程度の黒灰色砂質粘土が堆積している。

なお、美男川遺跡の広がりを確認するために当遺跡のすぐ北側を約1,500㎡に及ぶ確認調査を行ったが、周囲より低いところを蛇行する自然流路跡が見つかっただけで遺構は検出されなかった。



第12図 鳥巡遷跡 遺構配置図 (1/400)



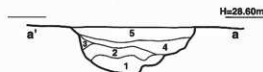
第13図 鳥巡遺跡 3号溝土層断面（東より）



第15図 鳥巡遺跡 3号溝土層断面（西より）

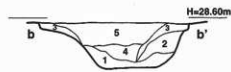


第17図 鳥巡遺跡 3号溝土層断面（北東より）



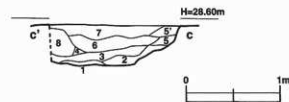
1. 黒灰色粘土
2. 灰色粘土 + 橙色粘土まじり
3. 橙色粘土 + 青灰色粘土少量筋状に入る
4. 黄灰色粘土 + 橙色粘土少量入る
5. 4 + こげ茶微小粒多量入る

第14図 3号溝土層断面実測図 a-a' [1/40]



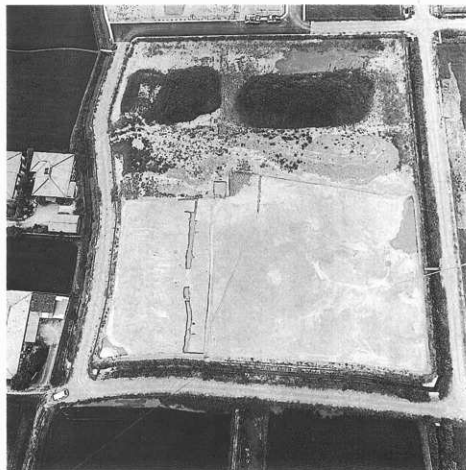
1. 黒灰色粘土
2. 橙色粘土 + 青灰色粘土筋状に入る
3. 褐色粘土 + 淡灰色粘土少量まじる
4. 黒灰色粘土 + 橙色粘土まじる
5. 灰色粘土 + 橙色粘土少量まじる

第16図 3号溝土層断面実測図 b-b' [1/40]



1. 赤灰色細砂
2. 明灰色粘土（砂質少し入る）
3. 灰色粘土 + 黄色粘土粒少し入る
4. 灰色粘土
5. 黄橙色砂質 + 明灰色粘土少し（砂質強い）
- 5'. 5にこげ茶色微小粒入る
6. 灰色粘土 + 橙色粒（7より砂質少し強い）
7. 灰色粘土 + 橙色粘土少量 + こげ茶色粒（砂質）
8. 汚れた橙色粘土（基盤）

第18図 3号溝土層断面実測図 c-c' [1/40]



第19図 島巡道跡全景（上空より）



第20図 島巡道跡 作業風景



第21図 島巡道跡北側 確認調査区全景（北より）

事業面積36,721㎡に及ぶ吉田地区で下吉田地区条里、美男川遺跡、島巡遺跡において調査を行った結果、居住地ではないと予想していた地区で広範囲に広がる湿地帯の存在と、その中に島状に点在する微高地に小規模な集落を形成し、湿地に居住するために掘立柱建物に礎板を用いるなど住みよいように技術を駆使して生活していた人々の姿を見ることが出来た。今後は各遺跡からの出土品を調査しながら、詳しい性格や時期などを検討しなければならない。(山田)

IV. おわりに

西小牟田遺跡2次調査と島巡遺跡の発掘調査を最後に、6年間に及ぶ八女東部の泉宮担い手育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査が終了した。基盤整備も全地区終了し、水田や園芸ハウスが整然と並んでいる。現在は平成15年をめどに環境整備と換地が行われている。調査期間中は事業面積が広大なだけに幾度も計画変更がなされ、それにとまって発掘調査も位置や面積の変更が余儀なくされてきた。そのため調査期間が延びることもあり、関係者の方々には多大なるご迷惑をお掛けしてきた。環境的にも苦勞の耐えない調査ばかりであったが、それでもどうにか無事終了出来たのは、地元町内会、土地改良区、作業員の皆様をはじめ、多くの関係者の方々のおかげである。長期間にわたるご協力とご理解、深く感謝いたします。

これまでの八女東部地区の発掘調査で、縄文時代から歴史時代までの遺構が発見された。その中で注目すべき遺構は、縄文時代においては多量の押型文土器や集石遺構が発見された尺取遺跡(平成7年度調査)があげられる。ナイフ型石器、石鏃などと一緒に、山型文や楕円文を施された押型文土器片が出土した。弥生時代においては、中期から後期にかけての竪穴住居群が発見された平田・六反田遺跡(平成6年度調査)があげられ、土壌から多量の炭化米も見られている。そのすぐ東に隣接する平田・北ノ前遺跡(平成6年度調査)では、中期の集落が発見されている。大半が火災を受けた竪穴住居群と、それを取り囲む大型の掘立柱建物群、そしてこの遺跡からも大量に炭化米の入った土壌が発見された。また、西原遺跡(平成7・8年度調査)からは中期の列埋葬墓群が、野内遺跡からは後期の墳墓群が発見された。八女東部で墳墓群が発見されたのはこの地区だけである。古墳時代においては、4世紀前半の豪族居館跡の一部が発見された平田・六反田遺跡や、古墳時代前半の方形周溝墓が発見された西原遺跡があげられる。いずれも八女市平田に所在しており、弥生時代から古墳時代前半にかけて大きな集落がこの地区に築かれていたことがわかる。歴史時代においては、欄列と思われる3時期の柱穴列と雨落ち溝跡が発見された風流松遺跡(平成9年度調査)があげられ、柱穴列に区画される規模や建物配置、出土遺物などの状況から官衙的な意味合いを深く持つ施設と思われる。また西に隣接する黒土・新替遺跡からは平安時代末期の道路状遺構が発見され、軒丸瓦(蓮華文)、丸瓦、平瓦が出土している。遺構の性格や明確な時期を決定する資料は出土していないが、8世紀後半から11世紀にかけて八女黒土地区が行政の中心地となっていたと考えられる。詳細な時代背景や施設の性格などを決定づけることは、古代の八女東部を明確にするためにも今後の大きな課題である。

調査数が膨大なため、まだまだ資料整理が追いついていない状態であるが、調査の成果を公表出来るよう日々努力を重ねていきたい。(山田)

報告書抄録

ふりがな	やめとうぶちくまいぞうふんかざいほつくつちようさがいほう						
書名	八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報6						
副書名	福岡県八女市大字忠見・吉田所在遺跡の調査概報						
巻次	第6分冊						
シリーズ名	八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第60集						
編著者名	赤崎敏男 中川寿賀子 山田朗子						
編集機関	八女市教育委員会						
所在地	〒834-8585 福岡県八女市大字本町647 TEL.0943-23-1111						
発行年月日	西暦 2000年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
西小牟田遺跡 2次調査	八女市大字忠見 字西小牟田	402109	33°13'17"	130°35'54"	19990405～ 19990531	3,300㎡	八女東部 ほ場整備 事業
西小牟田遺跡 1次調査2地点	八女市大字忠見 字西小牟田		33°13'16"	130°35'54"	19990222～ 19990312	160㎡	
島巡遺跡	八女市大字本村 字島巡		33°13'02"	130°33'57"	19990519～ 19990817	4,200㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
西小牟田遺跡 2次調査	集落	奈良時代	道路状遺構、溝、土壇	須恵器・土師器			
西小牟田遺跡 1次調査2地点	集落	弥生時代	土壇、溝	弥生式土器			
島巡遺跡	集落	弥生時代	溝、湿地跡	弥生式土器			

八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報6

八女市文化財調査報告書
第 60 集

平成12年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市大字本町647
印刷 橋爪印刷
八女市大字吉田1899-1